

**令和4年度  
事務事業評価シート  
(病院局)**

# 令和4年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載					
	10602010	川崎病院の運営			有					
担当	組織コード	所属名								
	833110	川崎病院事務局庶務課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—	施設の管理・運営	—	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例									
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画,自殺対策総合推進計画,かわさき保健医療プラン,川崎市立病院経営計画,地球温暖化対策推進基本計画,デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進プラン,男女平等推進行動計画									
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 3 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、地域の人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名							
	取組2(7)公営企業の経営改善		12・川崎病院エネルギーサービス導入によるエネルギーの効率的な利用及び災害時における病院機能の強化							
	取組2(7)公営企業の経営改善		13・市立病院におけるデジタル化の推進							
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	11,453,877	11,973,263	16,566,395	17,704,591	14,281,475		12,701,202		
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	0	0		0	
		市債	1,043,500	-	5,746,900	5,251,100	3,345,200		1,306,200	
		その他特財	9,671,891	-	10,081,009	11,697,059	10,197,789		10,656,516	
		一般財源	738,486	-	738,486	756,432	738,486		738,486	
	人件費* B	7,502,414	7,502,414	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	18,956,291	19,475,677	16,566,395	17,704,591	14,281,475	0	12,701,202	0	
	人工(単位:人)	890.6								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画(Plan)

政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	信頼される市立病院の運営
	直接目標	誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	<p>高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院として精神科救急患者(二次、三次)の受入れを行います。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入れ、災害拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。</p> <p>①段階的な医療機能再編整備の検討・推進(新築棟、既存棟の設計)            ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:30,300人以上、救急搬送受入数:6,400人以上、救急応需率(三次):95%以上、救急応需率(二次):84%以上)            ③プレホスピタル活動の充実(救急ワークステーション実現に向けた運用方法の検討・調整)            ④災害時医療機能の充実・強化(病院危機管理体制の充実、災害備蓄の充実)            ⑤入院センターの活用(入院時支援加算算定件数:2,300件以上)            ⑥薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備(薬剤管理指導料算定件数:13,000件以上、薬剤師の病棟配置数:5病棟)            ⑦川崎病院エネルギーサービス事業の推進(工事推進)            ⑧精神科医療の充実(精神保健指定医数:3人以上)            ⑨がん診療機能の強化・拡充(地域がん診療連携拠点病院の指定、がん登録数(報告値):1,570件以上、がん相談件数:320人以上)            ⑩認知症疾患医療センターの強化・拡充            ⑪新興感染症への対応            ⑫地域医療支援病院の運営と連携の推進(紹介率:75%以上、逆紹介率:115%以上、PET-CT運用:1,100件以上)</p>	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容		

## 実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度

4

- 1. 目標を大きく上回って達成
- 2. 目標を上回って達成
- 3. ほぼ目標どおり
- 4. 目標を下回った
- 5. 目標を大きく下回った

### 取組内容の実績等

(上記に掲げた取組内容に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)

目標を下回りました。

①段階的な医療機能再編整備の検討・推進については、救命救急センター棟の新築の実施設計及び既存棟の改修の実施設計を行いました。

②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に、救命救急センター病棟の一部をコロナ専用病床にしたことなどから、通常の救急患者の受け入れに影響しましたが、救急搬送患者確保に努めたことから救急搬送受入数は目標を達成しました(救急患者受入数:18,295人、救急搬送受入数:6,846人、救急応需率(三次):89.2%、救急応需率(二次):72.5%)。

③プレホスピタル活動の充実については、救急ワークステーション実現に向けて、川崎市消防局など関係機関と検討を進めました。

④災害時医療機能の充実・強化については、BCPの改定を行い、病院危機管理体制の充実を図りました。また、院内災害訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は本部訓練のみでしたが、令和4年度は本部訓練に加えて、手術室・ICU・ERの患者受け入れ訓練も行いました。また、避難用新生児キャリア等、災害備蓄の充実を図りました。

⑤入院センターの活用については、産科・口腔外科・小児科を除く全科を入院センターで対応できるよう体制を構築しました。その結果、入院時支援加算算定件数が目標を大幅に上回って達成し、入退院支援に貢献しました(入院時支援加算算定件数:3,322件)。

⑥薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備については、薬剤管理指導料算定件数は目標値を下回りましたが、薬剤師の病棟配置数は目標を達成しました。今後も病棟における薬物療法の質の向上と医療安全確保に努めます(薬剤管理指導料算定件数:10,446件、薬剤師の病棟配置数:5病棟)。

⑦川崎病院エネルギーサービス事業の推進については、令和4年度、給水ポンプ棟が完成しました。また、令和3年2月より着手しているエネルギー棟については、令和5年度に完成し、運用開始予定です。

⑧精神科医療の充実のため、精神保健指定医数3人以上を維持し、目標を達成しました(精神保健指定医数:3人)。

⑨がん診療機能の強化・拡充については、今年度から地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん登録数はほぼ目標値を達成しました。また、がん相談件数はがん患者サロン等のチラシやポスターの配布及び掲示を、近隣の連携医療機関や区役所等に依頼し、がん相談に対する認識を広めた結果、目標を大幅に上回って達成しました(がん登録数(報告値):1,516件、がん相談件数:407人)。

⑩認知症疾患医療センターの強化・拡充については、もの忘れ外来の予約枠を増やし、患者受入数を拡充しました。また、南部の医療機関等と連携し、病院とクリニックとの役割や、協働のあり方等について協議するネットワークを構築しました。

⑪新興感染症の対応については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、神奈川モデルの高度医療機関及び重点医療機関として積極的に専用病床を整備・拡充し、陽性患者の入院受け入れを行い、感染患者の受入要請に適切に対応しました。

⑫地域医療支援病院の運営と連携の推進については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による様々な影響により、地域の医療機関等とのスムーズな紹介・逆紹介が行えず、紹介率・逆紹介率は目標を下回りましたが、地域医療支援病院の指定要件を維持しました。PET-CTの運用については、地域の医療機関への広報強化などによる共同利用の推進に努めた結果、目標を達成しました。今後も、継続的に医療機関訪問等を実施し、病院・診療所との連携を進め、広報等を通して地域におけるPET-CTの共同利用を推進していきます(紹介率:62.8%、逆紹介率:98.8%、PET-CT運用:1,106件)。

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1	活動指標 市民公開講座開催数 説明 市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座の開催回数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	目標	4	4	—	—	回
		実績	6	—	—	—	
2	活動指標 災害派遣医療チームの隊員数(市DMAT) 説明 災害派遣医療チームの在籍隊員数(研修修了者) ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	目標	30	30	—	—	人
		実績	49	—	—	—	
3	成果指標 入院患者満足度 説明 市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	目標	89.3	89.3	89.3	89.3	%
		実績	95	—	—	—	
4	成果指標 外来患者満足度 説明 市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	目標	81.7	81.7	81.7	81.7	%
		実績	84.5	—	—	—	
5	成果指標 紹介患者数 説明 地域の他の医療機関から紹介されて川崎病院を受診した患者数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	目標	12,000	12,000	—	—	人
		実績	11,364	—	—	—	
6	成果指標 精神科救急患者受入数(二次・三次救急) 説明 精神科救急医療体制により受入れた患者数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	目標	29	29	—	—	人
		実績	20	—	—	—	
7	成果指標 病床利用率(一般) 説明 病院のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値)×100(%)	目標	78.5	78.5	78.5	78.5	%
		実績	66.4	—	—	—	
8	成果指標 救急患者受入数 説明 夜間や休日等の診療時間外に診察等を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計	目標	30,300	30,300	30,300	30,300	人
		実績	18,295	—	—	—	

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)

社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受け入れが求められています。

事業の見直し・改善内容

実施 (直近) R 3 年度  未実施

具体的な見直し・改善内容  
※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載


R3年度:川崎市立病院経営計画2022-2023を策定し、計画期間内(R4-5)における経営形態の現状維持等を確認しました。  
R1年度:駐車場を貸し付け方式により民営化しました。  
H29年度:川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本計画を策定し、拡充する機能、規模、配置など計画をとりまとめました。  
H28年度:川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本構想を策定し、医療機能再編整備の基本的な考え方をとりまとめました。  
H27年度:川崎市立病院中期経営計画2016-2020を策定し、計画期間内(H28-R2)における経営形態の現状維持等を確認するとともに、医療機能再編整備の検討を進めることとしました。  
H26年度:市立川崎病院におけるスマート化の基本方針を策定し、今後の医療需要の増加に対応する医療機能再編整備の検討を進めることとしました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	【市民のニーズ】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】提供する医療機能のうち、民間医療機関の担い手が限られている。三次救急医療、精神科救急医療、感染症等の政策的医療・不採算医療については、引き続き公立病院として担っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	・市民公開講座開催数については、今年度から院内・院外での講演を再開し、またWEBとのハイブリッド開催を行うことにより、目標を達成しました。 ・入院患者満足度、外来患者満足度については、目標を大幅に上回って達成しました。 ・病床利用率及び救急患者受入数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に、救命救急センター病棟の一部をコロナ専用病床にしたことなどから、目標を下回ったものの可能な限り患者を受け入れており、市の基幹病院としての役割を果たしました。 ・精神科救急患者受入数(二次・三次救急)については、4県市協同体制の精神科救急システムを経由した入院であるため、当院のみでコントロールができるものではありません。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	【民間の活用】値引き交渉アドバイザーの活用により、薬品費や診療材料費の抑制に取り組みました。 【事業手法等の見直し】医療機器購入時における保守契約を含めた入札を行い、調達・ランニング両面で経費の削減を図りました。 引き続き合同入札の対象拡大等、事業手法の見直しに取り組みます。 【質の向上】かわさきWi-Fiのアクセスポイントを増設し、利用可能病棟を増やしました。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	一部の成果指標が目標値に至らなかったものの、三次救急医療、感染症医療、精神科救急など、公立病院に求められる政策的医療等を継続的に実施するなど、施策に対して貢献しました。 ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割(高度医療機関・重点医療機関)を積極的に果たしていくため、必要な医療従事者や病床、資機材等を確保しながら、院内感染対策の徹底に取り組み、感染患者の受入要請等に適切に対応しました。

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①段階的な医療機能再編整備の検討・推進(新築棟、既存棟の工事着手) ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:30,300人以上、救急搬送受入数:6,600人以上、救急応需率(三次):96%以上、救急応需率(二次):88%以上) ③プレホスピタル活動の充実(救急ワークステーション実現に向けた運用方法の検討・調整) ④災害時医療機能の充実・強化(病院危機管理体制の充実、災害備蓄の充実) ⑤入院センターの活用(入院時支援加算算定件数:2,300件以上) ⑥薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備(薬剤管理指導料算定件数:19,000件以上、薬剤師の病棟配置数:11病棟) ⑦川崎病院エネルギーサービス事業の推進(工事完了、運用開始) ⑧精神科医療の充実(精神保健指定医数:3人以上) ⑨がん診療機能の強化・拡充(地域がん診療連携拠点病院の指定、がん登録数(報告値):1,570件以上、がん相談件数:320件以上) ⑩認知症疾患医療センターの強化・拡充 ⑪新興感染症への対応 ⑫地域医療支援病院の運営と連携の推進(紹介率:75%以上、逆紹介率:120%以上、PET-CT運用:1,100件以上)
変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	変更の理由	

# 令和4年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			政策体系別計画の記載							
	10602020	井田病院の運営			有							
担当	組織コード	所属名										
	835110	井田病院事務局庶務課										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	—	—	施設の管理・運営	—	—							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例											
総合計画と連携する計画等	自殺対策総合推進計画,かわさき保健医療プラン,川崎市立病院経営計画,地球温暖化対策推進基本計画,デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進プラン,男女平等推進行動計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 3 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、地域の人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。											
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組2(7)公営企業の経営改善			13・市立病院におけるデジタル化の推進								
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		5,020,741	4,553,645	5,082,681	5,160,641	5,497,663		5,247,012		
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0		0	
			市債	362,100	-	172,634	265,600	479,356		236,067		
			その他特財	4,210,975	-	4,462,381	4,438,136	4,570,641		4,563,279		
	一般財源	447,666	-	447,666	456,905	447,666		447,666				
人件費※ B		4,252,941	4,252,941	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)		9,273,682	8,806,586	5,082,681	5,160,641	5,497,663	0	5,247,012	0	0		
人工(単位:人)		504.86										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画(Plan)

政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	信頼される市立病院の運営
	直接目標	誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行っています。また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:9,200人以上、救急搬送受入数:2,500人以上、救急応需率(二次):78%以上) ②災害時医療機能の充実・強化(有用な設備や高度な機能を活用した実践的な訓練の実施、必要な食糧、飲料水、医薬品等の備蓄確保) ③薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備(薬剤管理指導料算定件数:5,000件以上、薬剤師の病棟配置数:4病棟) ④地域がん診療連携拠点病院の運営と診療機能の充実(がん登録数(報告値):1,260件以上、がん相談件数:3,100件以上、緩和ケア患者受入数:500人以上) ⑤新興感染症への対応 ⑥地域医療連携の推進・強化(地域医療支援病院の申請、紹介率:60%以上、逆紹介率:80%以上、地域包括ケア病棟稼働率:90%以上) ⑦在宅療養支援の推進・強化(在宅療養後方支援病院登録患者数:330人以上)	

## 実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度

4

1. 目標を大きく上回って達成
2. 目標を上回って達成
3. ほぼ目標どおり
4. 目標を下回った
5. 目標を大きく下回った

### 取組内容の実績等

(上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)

目標を下回りました。

①救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に、救急後方支援病棟の一部をコロナ専用病床にしたことなどから、通常の救急患者の受け入れに影響しましたが、救急搬送患者確保に努めたことから救急搬送受入数は達成しました(救急患者受入数:8,686人、救急搬送受入数:2,923人、救急応需率(二次):59.3%)。

②災害時医療機能の充実・強化については、令和4年7月1日に神奈川県から災害拠点病院に指定され、DMAT(災害派遣医療チーム)隊員の関東ブロックDMAT訓練、大規模地震時医療活動訓練及びビッグレスキューかながわへの参加や、非DMAT隊員を含む職員の川崎市南部医療圏病院連携訓練への参加等、積極的な取組を行いました。また、災害対応能力の向上を目的としてD-HIMS(災害時院内情報管理システム)を導入するとともに、災害時の備えとして、3日分以上の備蓄品(食料、飲料水、医薬品)を確保しています。

③薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備については、薬剤師の病棟配置数は目標を達成するとともに、薬剤管理指導料算定件数については6,108件と目標を大幅に上回って達成し、病棟における薬物療法の質の向上と医療安全確保に貢献しました(薬剤管理指導料算定件数:6,108件、薬剤師の病棟配置数:4病棟)。

④地域がん診療連携拠点病院の運営と診療機能の充実については、新型コロナウイルス感染症の影響によりがん登録数は目標を下回ったものの、がん相談件数と緩和ケア受入患者数は目標を大幅に上回って達成しました(がん登録数(報告値):1,030件、がん相談件数:3,939件、緩和ケア患者受入数:662人)。

⑤新興感染症への対応については、神奈川モデルにおける重点医療機関として新型コロナウイルス感染症に対応し、必要な医療従事者や病床、資機材等を確保し、感染患者の受け入れ要請等に適切に対応しました。なお、令和4年7月には新型コロナウイルス感染症専用病床に転換していた結核病棟を再開しました。今後も新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行を見据え、引き続き適切な感染症医療を確保します。

⑥地域医療連携の推進・強化については、令和5年度中の地域医療支援病院の承認申請を目指して病院全体で取り組みました。また、新型コロナウイルス感染症の影響による非紹介患者の増加により紹介率は目標を下回りましたが、逆紹介率は目標を大幅に上回って達成しました。更に、地域包括ケア病棟稼働率については、新型コロナウイルス感染症の影響の他、令和4年4月の診療報酬改定において自院の一般病棟からの稼働率が制限されたこと等により目標を下回りました(紹介率:56.8%、逆紹介率:89.6%、地域包括ケア病棟稼働率:72.3%)。

⑦在宅療養支援の推進・強化については、医療依存度の高い患者に対し、入退院支援の強化を図るとともに在宅診療、訪問看護を行い、在宅療養後方支援病院として、地域の往診医からの要請に基づき、救急診療や入院等について24時間対応できる体制を維持した結果、目標を達成しました。(在宅療養後方支援病院登録患者数:340人)。

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位	
1	活動指標	市民公開講座等開催数	目標	12	12	—	—	回
	説明	市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座や出前講座の開催回数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	実績	16	—	—	—	
2	活動指標	がんサロン開催数	目標	24	24	—	—	回
	説明	がん患者とその家族が、診察室以外の場所で、日常の悩みの相談など自由に語れる場所であるがんサロンの開催数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	実績	6	—	—	—	
3	成果指標	入院患者満足度	目標	91.3	91.3	91.3	91.3	%
	説明	市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	93.4	—	—	—	
4	成果指標	外来患者満足度	目標	85.2	85.2	85.2	85.2	%
	説明	市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	88.4	—	—	—	
5	成果指標	紹介患者数	目標	5,400	5,600	—	—	人
	説明	地域の他の医療機関から紹介されて井田病院を受診した患者数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	実績	5,542	—	—	—	
6	成果指標	内視鏡治療件数	目標	680	700	—	—	件
	説明	内視鏡により治療を行った件数 ※R6.7の目標値については、R5年度に策定予定の川崎市立病院経営計画に合わせて設定します。	実績	728	—	—	—	
7	成果指標	病床利用率(一般)	目標	90.4	90.4	90.4	90.4	%
	説明	病棟のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値)×100(%)	実績	67.2	—	—	—	
8	成果指標	救急患者受入数	目標	9,200	9,200	9,200	9,200	人
	説明	夜間や休日等の診療時間外に診察等を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計	実績	8,686	—	—	—	

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)

社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受け入れが求められています。

事業の見直し・改善内容

実施 (直近) R 4 年度  未実施

具体的な見直し・改善内容  
※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載

R4年度:経営戦略会議を開催して井田病院の今後の在り方を検討するとともに、病院を挙げて地域医療支援病院の承認に向けた取組を進めました。

R3年度:効率的な診療体制を構築するため、井田病院の血液内科の医師を川崎病院に集約しました。また、川崎市立病院経営計画2022-2023を策定し、計画期間内(R4-5)における経営形態の現状維持等を確認しました。

H29年度:効率的な診療体制を構築するため、井田病院の脳神経外科及び呼吸器外科の医師を川崎病院に集約しました。井田病院では、川崎病院との兼務体制により、外来診療を継続することとしました。また、駐車場を貸し付け方式により民営化し、有料化しました。

H27年度:川崎市立病院中期経営計画2016-2020を策定し、計画期間内(H28-R2)における経営形態の現状維持等を確認しました。

H26年度:新棟の全面開院に合わせた強化をしました。(救急センター、内視鏡センター、化学療法センターなど)

H24年度:新棟の一部開院に合わせた医療機能の強化をしました。(病棟機能の全面移転による病床再編、外来スペースの集約)


H21年度:再編整備計画の策定による医療機能の見直しをしました。(工事期間における計画)

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	【市民のニーズ】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】提供する医療機能のうち、民間医療機関の担い手が限られている。救急、感染症等の政策的医療・不採算医療については、引き続き公立病院として担っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	・活動指標及び成果指標のうち、市民公開講座等開催数、入院及び外来患者満足度、紹介患者数、内視鏡治療件数については目標を達成しました。 ・がんサロン開催数については、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が続いたことにより、目標を達成できませんでした。 ・病床利用率(一般)及び救急患者受入数については、救急患者の積極的な受入や地域医療連携の強化等の取組を推進してきたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数が減少したことなどから、目標を達成できませんでした。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	【民間の活用】値引き交渉アドバイザーの活用により、薬品費や診療材料費の抑制に取り組みました。 【事業手法等の見直し】医療機器購入時における保守契約を含めた入札を行い、調達・ランニング両面で経費の削減を図りました。 引き続き合同入札の対象拡大等、事業手法の見直しに取り組みます。 【質の向上】かわさきWi-Fiのアクセスポイントを増設し、利用可能病棟を増やしました。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	一部の指標が目標達成に至らなかったものの、救急医療や結核医療など、公立病院として求められる政策的医療を継続的に提供するとともに、がん診療や地域包括ケア病棟の運営、在宅療養後方支援病院の取組の推進など、地域のニーズを踏まえた医療を提供し、施策に対して貢献しました。 ・市民公開講座やがんサロン、医療従事者を対象とした症例検討会等は、新型コロナウイルス感染症の影響により院内での開催回数が減少しましたが、高齢者福祉施設等を対象とした感染対策出前講座を実施し、市民の意識啓発や地域と連携した感染対策を推進しました。 ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割(重点医療機関)を積極的に果たすため、必要な医療従事者や病床、資機材等を確保しながら、院内感染対策の徹底に取り組み、感染患者の受入れ要請等に適切に対応しました。

改善(Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>①救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:9,200人以上、救急搬送受入数:2,600人以上、救急応需率(二次):80%以上)</li> <li>②災害時医療機能の充実・強化</li> <li>③薬物療法の有効性・安全性の向上に資する病棟薬剤師の配置と薬剤管理指導体制の整備(薬剤管理指導料算定件数:5,500件以上、薬剤師の病棟配置数:6病棟)</li> <li>④地域がん診療連携拠点病院の運営と診療機能の充実(がん登録数(報告値):1,300件以上、がん相談件数:3,100件以上、緩和ケア患者受入数:500人以上)</li> <li>⑤新興感染症への対応</li> <li>⑥地域医療連携の推進・強化(地域医療支援病院の承認、紹介率:60%以上、逆紹介率:80%以上、地域包括ケア病棟稼働率:90%以上)</li> <li>⑦在宅療養支援の推進・強化(在宅療養後方支援病院登録患者数:330人以上)</li> </ul>
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)	
	変更の理由	

# 令和4年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	10602030			事務事業名	多摩病院の運営管理		政策体系別計画の記載	有			
	組織コード	832000			所属名	病院局経営企画室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例											
総合計画と連携する計画等	かわさき強靱化計画,かわさき保健医療プラン,川崎市立病院経営計画,地球温暖化対策推進基本計画											
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 3 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、地域の人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。											
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目				課題名							
	取組2(7)公営企業の経営改善				13・市立病院におけるデジタル化の推進							
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度				
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A		797,408	939,641	907,133	1,072,105	928,726		940,308		
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0			
			市債	104,600	-	226,000	373,800	248,000		259,000		
			その他特財	175,425	-	163,750	180,922	163,343		163,925		
	一般財源	517,383	-	517,383	517,383	517,383		517,383				
人件費※ B		14,742	14,742	0	0	0	0	0	0	0	0	
総コスト(A+B)		812,150	954,383	907,133	1,072,105	928,726	0	940,308	0	0		
人工(単位:人)		1.75										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	信頼される市立病院の運営
	直接目標	誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者制度を導入し、民間活力を活かした効果的かつ効率的な病院運営を行います。 基本的医療機能として、救急医療、小児救急医療、災害時医療を中心に、小児から成人、高齢者・妊産婦等への医療の提供を行います。また、救急及び急性期医療を軸とする中核病院としての役割が果たせるよう、さらには市立病院として適切な運営が行えるよう、指定管理者(聖マリアンナ医科大学)への指導・管理を行います。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進 (救急患者受入数:13,000人以上、救急搬送受入数:5,000人以上) ②新興感染症への対応 ③適切な施設維持、設備の更新 ④指定管理者による効率的な運営の実施 ⑤外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取(多摩病院運営協議会等の開催:年4回以上)	

## 実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標を下回りました。 ①市北部地域の中核病院として、救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進については、24時間365日の救急医療・小児救急医療等を実施しました。救急患者受入数及び救急搬送受入数については、救急搬送の依頼件数が昨年度よりも増加したことなどにより、救急患者受入数は50人増加し、救急搬送受入数は149人増加しましたが、救急災害医療センターや一般病床の一部を利用した新型コロナウイルス感染症患者受入体制の確保などにより、目標値は達成できませんでした(救急患者受入数:8,557人、救急搬送受入数:4,296人)。 ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、一般病床の転換による専用病床の整備・拡充を行い、延べ4,156人の陽性患者の入院受入れを行うとともに、発熱者専用の外来を設置して感染疑いの患者に対応するなど、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組みました。 ③長寿命化に向けた適切な施設維持の実施、医療需要に基づいた確かな医療機器更新の推進については、軽易工事、建設改良工事等を実施し、主電気室直流電源装置蓄電池更新工事などを施工しました。 ④指定管理者制度を活用した効率的な病院運営の推進については、電話やメール、あるいは直接多摩病院に行き、各種必要な情報を適切に伝達するとともに、指定管理者と課題や問題点等について協議し、調整及び解決を図り、適切に病院運営を推進しました。 ⑤外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取については、市立病院運営委員会における審議を3回、モニター懇談会を通じた意見聴取を1回実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 成果指標	入院患者満足度	目標	90	90	90	90	%
	説明	実績	85.5	—	—	—	
2 成果指標	外来患者満足度	目標	86	86	86	86	%
	説明	実績	86.8	—	—	—	



3	成果指標	病床利用率(一般)	目標	80	80	80	80	%
		説明 病院のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値)×100(%)	実績	62.1	—	—	—	
4	成果指標	救急患者受入数	目標	13,000	13,000	13,000	13,000	人
		説明 夜間や休日等の診療時間外に診察等を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計	実績	8,557	—	—	—	

## 評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	将来的に人口増加が予測されている川崎市北部地域では、特に小児を含む救急医療の確保についての市民要望がこれから益々高まっていくことが見込まれています。そのため、北部地域の中核病院として救急・急性期医療を中心とする医療ニーズに対応した、質の高い安全で安心な医療サービスの提供を継続することが求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受入れが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 24 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H24年度:平成24年4月1日から利用料金制度へ移行しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	病床利用率、救急患者受入数については、新型コロナウイルス感染症患者受入体制確保のための病床休止の影響もあり、目標値を達成できませんでした。また、入院・外来患者満足度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、入院患者満足度は目標値を達成できませんでした。外来患者満足度は目標を達成することができました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
評価の理由	指定管理者制度は開院当初から実施済みです。現状からの更なる効率性向上を求める場合には、指定管理者の変更や民間事業者への譲渡などの措置を講ずる必要があります。		

貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い <b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩病院の設立経緯が、川崎北部保健医療圏の病床数及び救急医療体制の不足に対処するため、3番目の市立病院を整備することになったことから、救急医療の提供は多摩病院が果たすべき最も重要な医療機能です。勤務医不足など厳しい環境下において、開院以来、24時間365日の救急医療体制を堅持し、救急患者を受け入れています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、入院患者数や外来患者数などが大幅に減少しましたが、令和4年度に至っても新型コロナウイルス感染症が蔓延する前の令和元年度以前の水準には回復していません。</li> <li>・小児救急医療については、小児科第二次応需病院及び休日第二次応需病院(小児科)として、小児救急搬送患者の受入態勢を維持し、施策に対し貢献しています。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行う神奈川モデルの重点医療機関及びワクチン接種協力医療機関として施策に対して貢献しています。</li> </ul>

## 改善 (Action)

方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 <b>II</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに無料の院内Wi-Fi(入院・外来)の整備、診察が近づいたら通知する機能や予約状況の確認などができるスマートフォンアプリの導入、聴覚障がい者のための手話通訳を含む多言語映像通訳サービスの導入、電光掲示板の表示方式の見直しなどに取り組んできましたが、今後も患者満足度調査の結果を踏まえ、患者サービスの向上に努めます。</li> <li>・救急患者受入数及び救急搬送受入数(小児救急含む。)については、今後も新型コロナウイルス感染症患者への対応と通常救急医療を両立しながら、受入数確保に取り組めます。</li> <li>・各種検診等の受入れやイベント等について、感染状況に応じて適切に対応するとともに、神奈川モデルにおける重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症の中等症患者の受入れを適切に行います。</li> <li>・今後も増大する医療需要に対して、公立病院としての使命と役割を果たすため、指定管理者制度を活用した効率的な病院運営を推進していきます。</li> </ul>
第3期実施計画に記載されている 次年度の取組内容	①救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進 (救急患者受入数:13,000人以上 救急搬送受入数:5,000人以上) ②新興感染症への対応 ③適切な施設維持、設備の更新 ④指定管理者による効率的な運営の実施 ⑤外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取(多摩病院運営協議会等の開催:年4回以上)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所) 変更の理由

# 令和4年度 事務事業評価シート

## 事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載				
	10602040	良質な医療の提供を担う人材の確保・育成事業				有				
担当	組織コード	所属名								
	831100	病院局総務部庶務課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—	その他	その他	内部管理					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 地方公務員法、地方公営企業法									
総合計画と連携する計画等	かわさき保健医療プラン、川崎市立病院経営計画、人権施策推進基本計画									
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	3 優れた医療人材の安定確保及び医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めることで、良質な医療の提供につなげ、あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度		
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	253,804	0	269,996	256,334	184,341		137,451		
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	0		0	
		市債	0	—	0	0	0		0	
		その他特財	253,804	—	269,996	256,334	184,341		137,451	
		一般財源	0	—	0	0	0		0	
人件費* B	20,218	20,218	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	274,022	20,218	269,996	256,334	0	184,341	0	137,451	0	
人工(単位:人)	2.4									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

## 計画 (Plan)

政策体系	政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	人材の確保:市立病院に就職を予定している人 人材の育成:本市病院事業職員
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	優秀な医療人材の安定確保及び医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めることにより、良質な医療の提供を図ります。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	効果的な広報活動、柔軟な採用選考、多様な任用制度の活用等により、採用困難職種である医師、看護師等の確保に取り組むとともに、局人材育成計画に基づき、各種研修の充実、受講支援等を行い、職員の人材育成と能力開発に努めます。
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①川崎病院医療機能再編整備に伴う必要な人員体制確保に向けた取組 ②医療の高度化・専門化に対応する組織・人員体制強化に向けた取組 ③効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保(看護学校学生実習受入延数:1,060人以上) ④人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成(人材育成計画に基づく研修開催回数:年60回以上)

## 実施結果 (Do)

上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①川崎病院医療機能再編整備に伴う必要な人員体制確保に向けた取組について、リハビリテーション技士(PT、OT及びST)を8名採用しました。 ②医療の高度化・専門化に対応する組織・人員体制強化に向けた取組について、川崎及び井田両病院の庶務課に経営管理担当課長と業務改善・調整担当係長を配置し、経営管理と業務改善の強化に取り組みました。 ③効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保について、採用選考を年6回開催した他、人材サービス会社が主催する助産師・看護師の合同就職説明会や学校主催の合同就職説明会への参加による効果的な広報活動、柔軟な採用選考を実施し、看護師96人を採用しました。また、看護学校学生実習受入延数はコロナ禍により受入態勢の確保が困難であったため目標を下回りました。今後は臨床現場の状況を考慮しながら、受入延数確保に努めます(看護学校学生実習受入延数:684人)。 ④人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成については、当該計画に基づく各種研修を適切に実施し、目標を大幅に上回って達成しました(人材育成計画に基づく研修開催回数:年81回)。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 活動指標	看護学校学生の実習受入延数	目標	1,060	1,060	1,160	1,160	人
	説明	実績	684	—	—	—	
2 活動指標	各種研修の開催回数	目標	60	60	60	60	回
	説明	実績	81	—	—	—	
3		目標	—	—	—	—	
	説明	実績	—	—	—	—	

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	小児科医、産科医をはじめとして、全国的な医師不足となっています。また、税・社会保障一体改革における推計において、団塊の世代が後期高齢者となる令和7年には、看護職員は3万人～13万人が不足すると見込まれています。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度：病院医事課に配置する事務系専門職種である医療事務職の採用選考を実施しました。 H25年度：助産師・看護師の採用選考案内の作成を年度一括に変更し、経費を削減しました。 H24年度：看護師確保のための学校訪問について、採用者実績に応じた重点訪問方式に見直しました。

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
	評価の理由	本事業の実施については、医療制度改革、診療報酬改定等の国の制度改革の影響を直接に受けるため、これらの動向を注視しながら、本市立病院が担うべき医療機能にふさわしい人材の育成・確保に取り組む必要があります。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	活動指標(看護学校学生の実習受入延数)は目標を下回っていますが、急性期一般入院基本料1(7対1看護配置基準)の維持に必要な看護師を確保しています。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	良質な人材確保について、より効果的な広報活動による改善が考えられます。人材育成については、局内で開催する研修をはじめ、職種や専門分野ごとの学会や職能団体等が実施する研修への参加により、医療提供に必要な知識や技術の向上、より高度な資格取得に向けた支援に取り組んでいます。	
施策への貢献度	<b>貢献度区分</b>	<b>上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由</b>	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	医師・看護師等の人材確保を図り、医療提供体制を維持しています。

## 改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、川崎病院医療機能再編整備に伴う必要な医療提供体制を検討し、医療の高度化・専門化に対応した組織・人員体制の強化を進めていきます。</li> <li>効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用により、採用困難職種である医師、看護師等の確保に取り組みます。また、学生の認知度を上げるために、インターンシップ、病院見学会の開催に取り組めます。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5類に変更されたことに併せて実習受入制限を緩和し、看護学校学生実習受入延数確保に取り組めます。</li> <li>職員を対象とした局内で開催される研修等について、開催手法・参加手法を工夫し、必要な研修に参加できるよう支援します。</li> </ul>
	<b>第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①川崎病院医療機能再編整備に伴う必要な人員体制確保に向けた取組</li> <li>②医療の高度化・専門化に対応する組織・人員体制強化に向けた取組</li> <li>③効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保(看護学校学生実習受入延数:1,060人以上)</li> <li>④人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成(人材育成計画に基づく研修開催回数:年60回以上)</li> </ul>
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	<b>変更箇所</b> (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	<b>変更の理由</b>		

# 令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要										
事務事業	事務事業コード 10602050	事務事業名 経営健全化推進事業			政策体系別計画の記載 有					
担当	組織コード 832000	所属名 病院局経営企画室								
実施期間	事業開始年度 平成17年	事業終了年度 —	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等) その他	分類2(内部事務) 政策推進計画等(策定・進行管理)					
	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度									
	(法令・要綱等) 持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン(R4.3、総務省自治財政局長通知)									
総合計画と連携する計画等	かわさき保健医療プラン、川崎市立病院経営計画									
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性	 3 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供することで、地域の人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。									
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
	取組2(7) 公営企業の経営改善			10・「川崎市立病院経営計画2022-2023」等に基づく経営健全化の推進						
	取組2(7) 公営企業の経営改善			11・入院・外来自己負担金に関する債権対策の推進						
予決算 (単位:千円)	年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
			予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	事業費 A		201,606	217,830	214,006	297,398	215,706		213,106	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	0	0		0	
		市債	0	-	12,400	20,000	14,100		11,500	
		その他特財	173,018	-	173,018	248,810	173,018		173,018	
		一般財源	28,588	-	28,588	28,588	28,588		28,588	
	人件費※ B		51,386	51,386	0	0	0	0	0	0
	総コスト(A+B)		252,992	269,216	214,006	297,398	0	215,706	0	213,106
	人工(単位:人)		6.1							

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)	
政策体系	政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	病院事業会計
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市立病院の経営の健全化を推進することで、信頼される安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供できるように図ります。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	病院経営の改善に向けて、中期経営計画の策定や進捗管理、企画・立案や経営分析、諸統計の作成、諸課題の調整のほか、情報管理などを行い、病院事業の経営健全化を推進します。
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①川崎市立病院経営計画2022-2023の着実な推進及び取組状況の進捗管理と点検・評価の実施 ②総合医療情報システムの安定的な運用 ③患者サービスの向上等に資するICTを活用した医療支援・医療連携の推進

実施結果 (Do)							
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	4 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標を大きく上回って達成</li> <li>2. 目標を上回って達成</li> <li>3. ほぼ目標どおり</li> <li>4. 目標を下回った</li> <li>5. 目標を大きく下回った</li> </ol>						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標を下回りました。 ①川崎市立病院経営計画2022-2023に基づく、取組状況に対する外部評価を実施しました。また、経常収支比率については川崎病院及び井田病院において、新型コロナウイルス感染症患者の受入と並行した通常診療や、国等の補助・支援メニューの活用などの取組を行ったものの、光熱水費等の高騰の影響を吸収できず、目標値を達成できませんでした。 ②医療機関を標的とするサイバー攻撃が増加する状況を受けて、総合医療情報システムのセキュリティ対策の検討を進めました。 ③令和4年度に川崎病院では小児科及び精神科病棟を除くすべての病棟に、井田病院ではHCU・CCU病棟を除くすべての病棟にかわさきWi-Fiを整備しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 成果指標	経常収支比率(川崎病院)	目標	99.3	98.8	-	-	%
	説明 病院本来の医療活動のほか、医療外活動も加えた経営状況を示す指標で、比率が大きいほど、経営状態が良好であることを表す。次の計算式により算出する。 (%) = (医療収益 + 医療外収益) / (医療費用 + 医療外費用) × 100 ※R6、R7の目標値はR5に計画改定を行う際に設定する。	実績	98.8	-	-	-	
2 成果指標	経常収支比率(井田病院)	目標	87.5	92.4	-	-	%
	説明 病院本来の医療活動のほか、医療外活動も加えた経営状況を示す指標で、比率が大きいほど、経営状態が良好であることを表す。次の計算式により算出する。 (%) = (医療収益 + 医療外収益) / (医療費用 + 医療外費用) × 100 ※R6、R7の目標値はR5に計画改定を行う際に設定する。	実績	83.5	-	-	-	
3	説明	目標	-	-	-	-	
		実績	-	-	-	-	

## 評価 (Check)

<b>事業を取り巻く社会環境の変化</b> (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	高齢化の進展や人口減少、あるいは雇用基盤や家族形態等の変化など、社会保障制度を取り巻く環境が大きく変化する中においても、公立病院には、地域において必要な医療提供体制の確保を図り、安定した経営の下で、不採算医療や高度・急性期医療等を、継続的に提供することが求められています。
<b>事業の見直し・改善内容</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R <b>3</b> 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R4年3月:「川崎市立病院経営計画2022-2023(計画期間:R4~R5年度)」策定 H28年3月:「川崎市立病院中期経営計画2016-2020(計画期間:H28~R2年度)」策定 H27年3月:「新公立病院改革ガイドライン(総務省自治財政局長通知)」 病院事業を設置する自治体に「新公立病院改革プラン」の策定を要請 H24年3月:「第3次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H24~26年度)」策定 H21年3月:「第2次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H21~23年度)」策定 H18年3月:「川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H17~21年度)」策定

評価項目		評価	
必要性	<b>【市民のニーズ】</b> 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	<b>a</b>
	<b>【市が実施する必要性】</b> 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	<b>b</b>
	評価の理由	【市民のニーズについて】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】公立病院として、引き続き救急医療、感染症等の政策的医療・不採算医療を担っていく必要があります。	
有効性	<b>【成果】</b> 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	<b>c</b>
	評価の理由	経常収支比率について、川崎病院は施設基準の新規取得や患者数及び手術件数の増加等による収益増加等により、昨年度と比較して改善しましたが、井田病院は光熱水費等の高騰により費用が大幅に増加したことにより、昨年度と比較して悪化しました。	
効率性	<b>【民間の活用】</b> 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>b</b>
	<b>【事業手法等の見直し】</b> 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	<b>b</b>
	<b>【質の向上】</b> 事業を適正なく(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	<b>b</b>
評価の理由	【民間の活用】値引き交渉アドバイザーの活用により、薬品費や診療材料費の抑制に取り組んでいます。 【事業手法等の見直し・質の向上】各病院では、清掃業務や窓口会計業務等、委託による民間活用によって経費削減に取り組んでいます。更なる仕様の精査や契約方法の工夫などによって、より一層効率化、質の向上が図られる可能性はあります。		

施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	<b>B</b>	

## 改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<b>II</b>	
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容			①川崎市立病院経営計画2022-2023に基づく取組の推進・点検・評価、及び次期市立病院経営計画の策定 ②総合医療情報システムの安定的な運用 ③患者サービスの向上等に資するICTを活用した医療支援・医療連携の推進
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所 (上記計画上の記載に対する変更箇所)		
	変更の理由		

# 事務事業評価シートの見方

「事務事業評価シート」は、事務事業評価のツールとして、572 の事務事業ごとに、事業の実施結果の達成度を把握するとともに、施策全体の推進に寄与しているか等を確認し、効率的・効果的なP D C Aサイクルの実現につなげるため、事務事業所管課が作成し、取りまとめたものです。

事務事業評価シートの見方は次のとおりです。

## 令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要													
事務事業	事務事業コード	事務事業名							政経体系別計画の記載				
	50101080	SDGs未来都市推進事業							有				
担当	組織コード	所属名											
	170910	総務企画局都市政策部企画調整課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類		分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)						
	-	-	その他		-		-						
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度												
(法令・要綱等)	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」実施要綱、川崎市SDGsプラットフォーム設置要綱、SDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金交付要綱												
総合計画と連携する計画等													
地球温暖化対策推進基本計画 男女平等推進行動計画													
SDGsのゴール・ターゲットを意識した取組の方向性													
16 17.17 川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」と「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、多様なステークホルダーとの連携強化を図り、SDGsの達成に向けた取組を支援します。													
行財政改革第3期プログラムに関連する課題名													
改革項目													
課題名													
予決算 (単位:千円)	年度	R4年度		R5年度		R6年度		R7年度					
		予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	事業費	14,917	13,076	8,053	11,155	8,053		8,053				
		国庫支出金	0	-	0	0	0		0				
		市債	0	-	0	0	0		0				
		その他特財	0	-	0	0	0		0				
	人件費* B	一般財源	14,917	-	8,053	11,155	8,053		8,053				
総コスト(A+B)		21,987	21,987	0	0	0	0	0	0	0	0		
人工(単位:人)		36,904	35,063	8,053	11,155	0	8,053	0	0	8,053	0		
		2.61											

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)		
政策体系	政策	参加と協働により市民自治を推進する
	施策	市民参加の促進と多様な主体との協働・連携のしくみづくり
	直接目標	多様な主体が協働・連携して地域課題の解決を進める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	川崎市内で事業活動をしている企業や川崎市内で活動をしている組織等の多様なステークホルダー	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」と「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、SDGsの達成に向けた取組の支援を行うことで、市域におけるSDGsの推進を目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	国の取組との連動、川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」を基盤とした多様な主体との連携強化、職員や市民、企業団体等への理解の浸透を図り、SDGsの推進に効果的に取り組みます。	
第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容	①川崎市SDGs登録・認証制度の申請様式の改善など手続の利便性向上に向けた検討と取組の推進 ②情報提供やセミナー開催などによるSDGsに取り組む事業者の支援 ③事業者のネットワーク化の支援に向けた取組事例の共有やマッチング支援などの実施 ④ポータルサイトや分科会の立ち上げなど事業者間連携の促進	

実施結果 (Do)							
上記「第3期実施計画に記載されている当該年度の取組内容」に対する達成度	3 <table border="1"> <tr> <td>1. 目標を大きく上回って達成</td> <td>4. 目標を下回った</td> </tr> <tr> <td>2. 目標を上回って達成</td> <td>5. 目標を大きく下回った</td> </tr> <tr> <td>3. ほぼ目標どおり</td> <td></td> </tr> </table>	1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った	2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った	3. ほぼ目標どおり	
1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った						
2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った						
3. ほぼ目標どおり							
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①川崎市SDGs登録・認証制度について、かわさきSDGsポータルサイトを開設しサイト上で申請手続を行うよう変更し、申請者への自動応答メッセージの送付や申請書への誤記入防止を図り、申請者の利便性の向上を図りました。 ②かわさきSDGsパートナー向けに随時情報発信を行うとともに、SDGsフォーラム・セミナーを5回開催しました。 ③SDGs大賞を初開催するとともに、事業者のマッチングを促進するSDGs達成に向けたモデル事業創出支援補助金を試行実施し、2件交付しました。 ④令和5年1月にかわさきSDGsポータルサイトを立ち上げるとともに、分科会が6つ立ち上がりました。						

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）	目標・実績	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	単位
1 成果指標	「かわさきSDGsパートナー」登録・認証事業者数	目標	2,437	3,139	3,630	3,973	者
	説明 「かわさきSDGsパートナー」に登録・認証された事業者等の累計件数	実績	3,145	—	—	—	
2 成果指標	SDGsにつながる行動に取り組んでいる人の割合	目標	—	34	—	50	%
	説明 市民アンケートにおいてSDGsにつながる行動に取り組んでいると回答した人の割合 ※アンケートは隔年に実施	実績	—	—	—	—	
3 成果指標	SDGsを知っている人の割合	目標	—	80	—	90	%
	説明 市民アンケートにおいてSDGsを知っていると回答した人の割合 ※アンケートは隔年に実施	実績	—	—	—	—	
4		目標					
	説明	実績					

⑧上記⑥に記載した取組に係る指標を設定し、活動実績や取組によって得られた事業成果を記載

事業を取り巻く社会環境の変化（国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など）		『必要性』と関連		『効率性』と関連	
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施（直近） R 4 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> R4年度：SDGs大賞の開催、SDGs達成	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

⑨事業を取り巻く社会環境の変化を記載

⑩直近5年程度の事業見直し・改善内容を記載

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
有効性	【成果】 活動結果（活動指標等）に対し事業の成果（成果指標等）は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な（過小でも、過大でもない）規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部（職員・組織）の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用により、市内の多様なステークホルダーに対し、SDGsの達成に向けた取組の支援を行ったことにより、市域におけるSDGsの推進が図られたことから、施策への貢献がありました。

⑪上記⑧⑨⑩の内容を踏まえ、必要性、有効性、効率性に係る評価結果を記載

⑫事業の評価結果等を踏まえ、上位の施策への貢献度を記載

今後の事業の方向性		実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	今後も、市内の多様なステークホルダーのSDGsの達成に向けた取組を支援するため、川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」や「川崎市SDGsプラットフォーム」の効果的な運用を図りつつ、さらなる支援の拡充について検討していきます。
第3期実施計画に記載されている次年度の取組内容		①川崎市SDGs登録・認証制度の申請様式の改善など手続の利便性向上に向けた検討と取組の推進 ②情報提供やセミナー開催などによるSDGsに取り組む事業者の支援 ③事業者のネットワーク化の支援に向けた取組事例の共有やマッチング支援などの実施 ④ポータルサイトや分科会の立ち上げなど事業者間連携の促進	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の取組内容の変更箇所	変更箇所（上記計画上の記載に対する変更箇所）		
	変更の理由		

⑬実施結果（Do）や評価（Check）を踏まえた今後の方向性を記載

⑭第3期実施計画に記載している次年度の取組内容・目標を記載し、上記⑬を踏まえ、次年度の取組に変更がある場合は、変更箇所と変更理由を記載